消化管外科

久留米大学病院
KURUME UNIVERSITY HOSPITAL

Ⅰ.一般目標(General Instructional Objective)

1.全人的医療を行うための基本的知識と技術を学ぶ。
2.メディカルスタッフとのチーム医療に参加し、医師としての態度・習慣を修得する。
3.患者やその家族とのコミュニケーションスキルを学ぶ。

Ⅱ.行動目標(Specific Behavioral Objectives)

1.症状・徴候から鑑別診断をあげることができる。

2.診察法、検査の目的を説明することができる。

① 以下の項目を自ら実施し、判定評価した結果をカルテに記載する。

・問診(患者とのコミュニケーション)
・頸部・胸部・腹部の診察(視診、触診、聴診、打診など)
・直腸診　肛門鏡検査
・各種ドレーンの管理
・血液検査(血算・生化学など)　検尿
・栄養評価
・心・肺機能の評価(心電図, スパイロメトリー)
・併存疾患の管理
・術前・術後の輸液管理
・合併症管理
・術前カンファランスの準備
・サマリーの記載

②指導医のもとで指示・依頼をうけた検査の実施と、その結果を自身で判定または評価することができる。

・X線検査(単純撮影、上部・下部消化管造影、CT、MRI、PETなど)
・内視鏡検査(上部・下部消化管内視鏡検査)
・超音波検査

Ⅲ.方略(Learning Strategies)

一般診療において頻繁に関わる外科的疾患への対応、基本的な外科手技の習得、周術期の全身管理などに対応するために、幅広い外科的疾患に対する診療を含む病棟研修を行なうこと。

Ⅳ.経験できる疾患・手術など

経験できる疾患:
食道:食道悪性腫瘍、食道粘膜下腫瘍、食道アカラシア、食道憩室、食道裂孔ヘルニア
胃・十二指腸:胃悪性腫瘍、胃粘膜下腫瘍、十二指腸腫瘍
小腸:小腸腫瘍、イレウス
大腸:大腸悪性腫瘍、大腸良性腫瘍、大腸憩室、肛門疾患
その他:腹腔内腫瘍、炎症性腸疾患、虫垂炎、腸閉塞、消化管穿孔、腹壁ヘルニア、ソケイヘルニア
経験できる手術:
上記疾患の(ロボット支援)内視鏡下手術と開胸・開腹手術
・食道切除および再建術、アカラシア手術、食道裂孔ヘルニア手術
・幽門側胃切除術、噴門側胃切除術、胃全摘術、胃腸吻合術
・結腸切除術、低位前方切除術、腹会陰式直腸切断術、人工肛門造設術、ヘルニア手術
経験できる治療
・消化管器癌(固形癌)に対する癌集学治療(化学療法、放射線治療)

Ⅴ.評価(Evaluation)

ローテーション終了時ごとにオンライン臨床教育評価システムEPOC2または研修医評価票Ⅰ、Ⅱ、Ⅲを用いて、指導医・医療スタッフ等により評価を行う。
また、研修医が自らの到達度を客観的に把握できるよう、指導医・医療スタッフからの評価や具体的なアドバイスを研修医に提供する。

Ⅵ.指導者と研修施設

1.診療部長	赤木　由人
2.指導責任者	藤田　文彦
3.指導医	村上　直孝(上部消化管)
	藤田　文彦(下部消化管)
4.研修施設	久留米大学病院

Ⅶ.週間予定

月	AM	研究発表会、抄読会、Morbidity and Mortalityカンファランス
	AM	病棟回診/検査
	PM	消化管カンファランス → グループカンファランス
火	AM	手術報告及びICU回診
	AM	病棟/手術/検査
水	AM	手術報告及びICU回診
	AM	病棟/手術/検査
木	AM	手術報告及びICU回診
	AM	病棟/手術/検査
金	AM	手術報告及びICU回診
	AM	術前カンファランス
	AM	病棟/手術/検査
土	AM	病棟